



Weekly Report



青い空 緑の山と風
黄色のうねりは
人類の理想 文化を表わす。
それらが混然一体調和して
ロータリーの理想に向って
昂って行く姿を示している。

地区の標語 **原点に帰りロータリーの心を学ぼう**

クラブの標語 **親睦と奉仕でクラブの和を深めよう**

第240回例会報告 (10/4)

(1995年～1996年度第13回例会)

◎司会 SAA委員会 委員 高村 弘

◎点鐘 会長 萩生田茂夫

◎国歌「君が代」 }
ソングリーダー 吉沢 洋景

◎ロータリーソング「我等の生業」 }

◎お客様紹介 会長 萩生田茂夫

小西平三郎様 (多摩RC)
宋 珉煥様 (米山奨学生)

◎会務報告 会長 萩生田茂夫

- 9月29日調布むらさきの5周年記念に多数出席ご苦勞様でした。
- 細則検討委員が7名決まりました。
宮本、横倉(舜)、赤尾、田中、遠藤(二)、杉山、橋口各委員。
- 森田会員の出席義務免除の件で12月まで延長が決定。
- 11月22日のガバナー訪問に提出するテーマ
 - 出席率の向上
 - 親睦と奉仕でクラブの和を
 - 初めて受け入れた留学生について
- 11月1日、日の出町ゴミ捨て場の見学を移動例会とする。

◎幹事報告 幹事 橋口 洋三

- 次回10月11日(水)の例会場は多摩そごう7F。
- 本日例会後に第5回理事会を開催します。
- 新入会員候補者のお知らせ
内田 茂男様 土方 久勝様
- 第4回地区GSE委員会開催の御案内
- 青少年交換派遣留学生の派遣先が決定。
鈴木 なつみさん → ブラジル
小野 直美さん → アメリカ
和氣 真菜さん → タイ
- 地区青少年交換委員会より地区留学生交歓会のご招待のご案内が来ています。
- 平成6年度、米山記念奨学会の事業報告と多摩市地域福祉活動計画に関する最終答申を回覧します。



◎米山奨学生の紹介 カウンセラー 吉沢 洋景

※奨学生としての感想 宋 珉煥様
皆さんお元気でしたか。私は皆さんのお陰で故郷で楽しくすごし、無事に帰りました。5周年記念には是非参加したかったのですが故郷での都合や仕事の都合で参加出来ず申し訳ありませんでした。5周年記念おめでとうございます。私は最初お話しした様に研究しております。故郷に帰った時、両親をはじめ大学の先生にも会いました。日本での事を両親や先生にお話したら『有難い事です。どうか皆様方よろしくお伝え下さい。』とのことでした。私が全ての事に安心して研究出来るのも皆様方のお陰とあらためて感謝致します。昨日学校へ行ったら掲示板に米山奨学生の募集が貼ってありました。どうしたら米山奨学生になれるかと質問も受けました。まじめに勉強し、勉強した事を社会に還元する事です。と話しました。私は故郷と日本のかけ橋になればと考えております。今後共どうかよろしく願います。

東京多摩グリーンロータリー・クラブ

会長：萩生田茂夫 副委員長：吉尾警太郎・山崎 光一
幹事：橋口 洋三 委員 平野行廣・飯島裕美・根本泰守
会報委員長：小城 章員 関岡俊二・城倉正博・戸田昭寿

事務局：東京都多摩市落合1-9-1
多摩センタービル7階
TEL 0423-72-6463/FAX 0423-72-6491

例会場 多摩そごう7F バンケットルーム

例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30

委員会報告

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会委員 小林 和夫

小西平三様：多摩RC・多摩市長の推薦で東京環境保全委員会に出席させて頂いております。

橋口 洋三：本日の卓話、高野さんよろしく申し上げます。

伊藤 英也：お客さん、ようこそ。

伊東 巖：会員皆さんの親睦旅行の参加をお願いして。

村上 久：パースディプレゼント有難うございました。

中山 恒武：結婚記念のお祝い有難うございました。

北村 幸彦：クラブ奉仕委員会に出席出来ず、申し訳ありません。

小林 和夫：佐伯さん、双子ちゃん、記念写真でお世話になりました。村上さん、この間の話面白かったよ。

本日合計 金23,000円 本年度累計 金309,106円

◎出席報告 出席委員会委員長 海野 栄一

会員総数	54名
出席者数	48名
本日出席率	88.89%
9/20出席率	83.33%

■ メークアップ 5名

大熊 将夫 (9/29調布むらさき)
城倉 正博 (9/29調布むらさき)
田中 實 (10/4多摩・9/29調布むらさき)
小林 和夫 (9/29調布むらさき)
関岡 俊二 (9/29調布むらさき)

■ 欠席届出者 6名

伊神 稔 石田 政昭 風間 茂穂
森田 舞子 新海源四郎 戸田 昭寿

◎ロータリー豆知識 ロータリー情報委員会委員 横倉 舜三

定款説明という事で、第4条の会合について定期の会合。非常の場合、又は正当な理由がある場合の会合の開き方。

◎ロータリーの友 雑誌委員会委員 伊澤ケイ子

今回の表紙は女性の私から見てもとても美しく、また知性的で素晴らしいと思います。

今月号の記事から紹介します。

P.27 『女性会員だからこそ幸』

福井フェニックスに現在8人の女性ロータリアンがおられます。

男女平等から共生へそして今時代は共に考え、共に企画に参加する男女参画型社会へと確実に変わりつつあります。3年目を迎えた昨今では時代の先駆けとなって教養豊かな、さわやかで品位のあるクラブに安定成長するか、女性を過小評価することで平等感を保とうとするクラブになるか、境目を迎えているように感じる。注目すべきことだと思います。

P.14 『罰金に感謝』

ちょっとした気の緩みで近道をしたため「私は左右をよく見て安全運転をし、だれにも危害は加えていない。ただ一瞬、停車を怠っただけである」それがパトカーに切符を切られてしまった。年は64才。この間つらかったこと、苦しかったこともたくさんあったが何とか乗り越えてここまでやってきた。

その私に神様が「最後まで気を抜かずには有終の美を飾れ」と、この交通違反で教えてくれたような気がする。

私もこの記事に教えられたような気がします。

読書の秋です。どうぞご一読下さい。

◎5周年記念事業実行委員会 吉沢 洋景 藤本 吉文

① 創立5周年記念の慰労会の案内。

10月11日(水) 19:00
京王プラザホテル4F『樹林』

② 決算の書類が揃いましたので、理事会で承認され次第発表する予定。

お 願 い

日の出町ゴミ処理場見学にあたっては現在社会的に問題になっている事柄に対してクラブが関与するものでない事をご留意下さい。

これからの卓話(予定)と行事

10月18日(卓話)小堀 憲助様(中央大学名誉教授)
「国際ロータリーとロータリークラブについて」

10月22、23日 親睦旅行(10月25日例会振替)

11月1日 移動例会(日の出町ゴミ処理場見学)

11月8日(卓話)森井 紀道様(地区GSE委員長)
「ロータリー財団について」

【卓 話】

「学校、家庭、地域の協力を求めて」

—教育懇談会5年のあゆみ— 弁護士 高野 範城



1. はじめに

私は1991年9月の青少年月間に、昭和55年11月に発生した金属バット殺人事件と、昭和63年12月に発生した女子高生監禁殺人事件を素材にして「青少年問題と人間の尊厳」と題して卓話をしました。本日は私共の連光寺、聖ヶ丘地区の青少年問題協議会で、私が関与してきました教育懇談会と子育て宣言の関係について述べてみたいと思います。

私共の地区では、1990年12月を第1回として、本年まで7回の教育懇談会の開催をしてきました。これに4回の学習会を加えると11回の教育懇談会になります。今日まで、映画会の400名を加えると延べ1000名ほどの人がこの懇談会に参加した事になります。各回のテーマは、別紙の通りであります。

ところで、この教育懇談会は、学校、PTA、地域の自治会、保護司、民生委員等が協力し合って、毎回5、60名の人々が参加して開かれているものであり、地域の親が中心になっているという意味では、全国に例がないものであります。私はこの教育懇談会を小さな地域における大きな実験と呼んでいます。

2. 問われている父親の役割

昭和52年10月30日、家庭内暴力を働き、父親に殺された当日、開成高校生が叫んだとされる「青春を返せ、人生を返せ」の言葉は、私達の子育てのあり方に多くの問題提起をしています。この子どもは小学校の時から家庭教師をつけられ、日曜日は塾に通い、開成中学へ入学したとされています。この子どもの16年間は、学校の勉強と成績が

すべてでありました。中学から高校にかけて成績が伸び悩んだ時、その反発を子どもは家庭内、とりわけ母親に暴力をもって対抗しました。父親はあまりの家庭内暴力に耐えかねて、ついに我が子を殺すに至りました。

他方、平成4年6月4日、東大卒のインテリの高校教諭が、33才の我が子を出刃包丁で殺した事件は、改めて子育ての難しさを私達に強く訴えました。この事件は、小・中学校当時は成績がよかった子どもが、県下の進学校である浦和高校に入学しましたが、中途退学し、その後大検をうけて立教大学に入学し、4年まで進級しましたが、結局退学した子どもが、器物を対象とした家庭内暴力を働き、父母に暴言をはき、それらの事が引き金となって、夫婦で子どもを前述のように殺害したというものです。

前記の二つの事件に共通するのは、受験と家庭内暴力であり、父親の思いあまっていた我が子への殺害という点であります。父親が事態の深刻さを聞いた時にはどうしようもない状況にあったとの事です。別言すれば、子育ての各段階、各段階において、父母の果たすべき役割、とりわけ父親の果たすべき役割如何という事になろうかと思えます。

3. 今日、父親の何が問題か

多くの父親は仕事中心の生活をしているため、子育ての事は母親にまかせきりであります。小・中学校の授業参観や教師の家庭訪問、そして中学から高校進学時の三者面談を含めて、母親まかせになっている人が多いのではないかとと言えます。つまり、父親は地域の事や家庭の事をすべて母親の「目と耳」を通じてしか知らないという事であり、父親独自の情報をもっていないために、子どもの発達段階と子どものおかれた実情に添った子どもの心に響く話し合いを、父と子が出来ないという事があります。

後に述べます子育て宣言のアンケートに答えてくれたある父親は、「私にとって子育ては、問われて戸惑う事ばかりです。社会人となった娘の幼稚園、小学校、中学校時代を振り返ってみた時、仕事の多忙さを理由に母親にまかせきりでした。数年前迄は、子どもの成長に地域や社会がこれほど深くかかわっていたとは思ってもよらず、自分の娘が他人に迷惑をかけず、思いやりのある娘に育てくれたらと、自らはさしたる努力もせず、他力本願であった事を恥じています。その反省の意もこめて、今、微力ながら地域の子ども達が少しでも健全に育てられるようお手伝いをしたいと思っています。」と述べていたのがとても印象に残っています。そして大切な事は、地域の子ども達の健全

成長のために大人が尽力する事は、子どものためばかりでなく、大人自身が地域にネットワークをもつ事に連なるといふ事でもあります。

4. 親子の会話こそ子どもの健全育成の道

子どもが健全に育つためには、日常生活における親子の会話の内容を豊かにし、子どもの人格が円満に形成され、その成長にあった人格が作られる事が根本です。そのためには、親自身が人生と仕事に真摯な姿勢で望み、夫婦、親子の生活体験を豊富にする事がまず第一に大切です。家族の団らんの時間に子どもの発達段階にふさわしい、政治経済の話題は勿論、阪神大震災と老人の孤独な死をめぐる社会時事問題や、オリックスの優勝を期待する神戸市民などのスポーツ、音楽、映画などの話題を通じて、子どもに生きる喜びを親は日常の会話の中で体験させる必要があります。次に、親は子どもの成長とともに子どもと一緒に歩み、人生のパートナーとして子どもに接する事です。学校や地域の運動会などの行事に参加し、地域のスポーツ大会や音楽会などを子どもと一緒にいわば体験する事によって、親も子ども大勢の知人を地域社会に作り、子どもと一緒に自分も成長出来る喜びをたくさんもつ事が出来、その事が親と子の会話を豊かにするゆえんだと思います。これを幼児期から小学校、中学、高校までの段階に至るまで実践する事が大切であります。これらの努力の連続が子どもの人格が調和のとれたものとなるゆえんです。このような積み重ねによって、子どもも親も地域社会に大勢の知人、友人をもつ事になり、その人々の愛情によって、子どもが健全に成長する事が期待出来る事になります。

私達は戦後、憲法や教育基本法、児童憲章や子どもの権利条約などに示される教育原理や子ども感を法令等のうえでは確保したものの、それらの理念を家庭や地域そして学校にあって日々実践しているかといえば否ではないかと思ひます。

家庭において、私達は日常の仕事に忙殺されて、他人の子どもや地域の子どものがのびのびと育つ教育環境の形成発展に貢献していないのが現状です。女子高生監禁殺人事件や中野富士見中のいじめ事件、西尾市の大河内君のいじめ事件などを見るまでもなく、子どもは不安な状況におかれています。

公立学校において、教職員はややもすると教科の成績中心で子どもを見ようとしがちであり、学問、スポーツ、芸術を含む子どもの能力の全面発達開花を、小、中学校を通

じて学年ぐるみ、学校ぐるみ、そして父母の力をかりて地域ぐるみで実践しようとしていないのが現状です。

いずれにしても私達大人は子ども達が何に苦しみ、何を望んでいるのかさえ真剣に理解しようとしなくなりつつあります。結局、子ども達は、家庭、地域、学校でバラバラな子育ての方針と相互の連携のないもとで日々成長しています。これでは子ども達は生きる喜びを味わえず、自分の存在の大切さも味わえないと思ひます。ここに「いじめ」等の事件が発生する背景の一つがあります。これでよいのか、このような子供を作りあげているのは私達親の貧しい文化と子育ての指針の不存在ではないのか、親はもっともっと英知を発揮し、親同士や親と教職員が協力し合う必要があるのではないかという痛切な反省のうえに生まれたのが、前述の教育懇談会であります。そして親、教職員、地域の大人の三つの異なる愛情で子どもを育てる事、これが子育て宣言です。これを地域の大人が一人ひとりよく理解し、教職員が実践する事が、子どもの健全成長にとても大切です。

5. おわりに

私達は子育て宣言のような子育てを通じてこそ、我が国の子ども達一人ひとりの心の中には、個人の人格と人間の尊厳を柱とする民主主義の精神と人間性が根付くと思ひています。

今私達に必要なのは、人間性を否定する家庭内暴力、校内暴力、体罰、いじめ等の一切の暴力を否定し、子ども達に生きる力を身につけさせ、自分がかけがえのない存在である事を自覚させる事です。そして、人間の尊厳と前述した民主主義の原理や制度を家庭、地域、学校の子育てにあたって一人ひとりが体得し合い、子どもの人格を尊重し、相互に励まし合う事ではないかと考えています。子ども達に対し大人が信頼出来るものである事、未来は希望がある事をしっかりと教えたいと思ひます。

改めてロータリーの標語を引用します。まことの幸福は人助けからです。

